

ASIRU

—アシル—

令和5年4月20日発行 第2号



チャレンジテストを日常の授業改善に生かしましょう

各学校においては、4月7日（金）に配信した「ほっかいどうチャレンジテスト」の結果分析を日々の授業改善の視点に生かしながら、日常の教育活動を推進していることと思います。

本号では、ある学校における「チャレンジテストの効果的な活用例」を紹介します。

「ほっかいどうチャレンジテスト」取組の趣旨

「ほっかいどうチャレンジテスト」の問題の集計・分析等を通して、各学校の学力向上に向けた取組の改善に生かす。

A 小学校における「ほっかいどうチャレンジテスト」の活用方法～国語編～

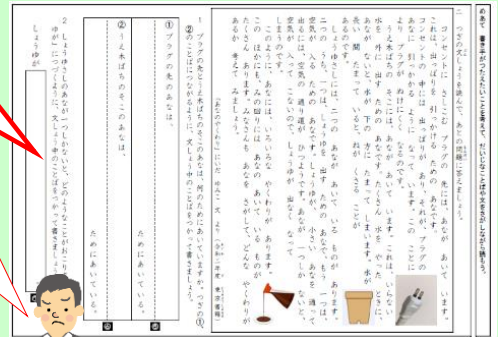
STEP 1 課題が見られた問題の指導事項を学習指導要領で確認する

この学校では、令和5年度前年度問題（第1回）国語 小3 設問二の1及び2の正答率が低いという実態が明らかになりました。

第1・2学年の指導事項C「読むこと」のウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」（思・判・表）に係る設問で課題が見られた。第3学年では、関連する指導事項の「中心となる語や文を見つけて要約する」力を身に付けさせるための授業改善を図る必要があるな。



学習指導要領解説を手がかりに、児童のどのような力に課題があるかを明らかにしています。



「ほっかいどうチャレンジテスト」前年度問題（第1回）国語 小3

STEP 2 研修担当や学年団と連携し、授業改善の方向性を明確にする

日常の授業では、児童に教材の内容を読み取らせることがメインになって、「重要な語や文」に気付かせる指導が疎かになっていたかもしれません。

内容の読み取りに偏重しないためには、どうすればよいでしょう？



「中心となる語や文を見つけて要約する」力は、「読むこと」の精査・解釈に当たるので、指導するのに適切な教材を探してみましょう。

相手意識や目的意識を大切にしながら、単元を通じた言語活動を充実させてみてはどうでしょう？



「内容を読み取らせる指導」ではなく、児童が「中心となる語や文を見つけて要約する」言語活動を位置付けて指導事項を指導するなど、日常の授業改善の方向性を明確にしています。

STEP 3 明らかにした授業改善の方向性を基に、授業を実践する



「めだか」（教育出版）の学習では、みんなで「生き物のすごいひみつカルタ」を作って低学年といっしょに遊びましょう。教科書の「めだか」の文章では、どの文を「生き物のすごいひみつカルタ」に書けそうかな？



「相手意識」や「目的意識」を明確にした単元を通じた言語活動を設定し、児童が単元のゴールまでの見通しをもてるようにしています。

STEP 4 再度問題に取り組ませ、指導事項が身に付いたか検証する



期間を置いて前年度問題に取り組ませ、児童に「中心となる語や文を見つけて要約する」力が確実に身に付いたかどうか検証しています。



<義務教育指導班からのお知らせ>

「ほっかいどうチャレンジテスト」等を活用し、学校力向上及び授業改善のための検証改善サイクルを確立することが大切です。上記内容を参考に、各学校で取組を推進しましょう。「ほっかいどうチャレンジテスト」に関するお問い合わせは、右記までお願いします。（担当：指導主事 平林 0154-43-9283）

